

**2019 J2 順位表 第 40 節**

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

|    |      |     |     |    |    |     |     |
|----|------|-----|-----|----|----|-----|-----|
| 1  | 柏    | 78p | +37 | 69 | 32 | A●  | H●  |
| 2  | 横浜FC | 73p | +23 | 63 | 40 | A●  | H△  |
| 3  | 大宮   | 73p | +22 | 60 | 38 | A●  | H△  |
| 4  | 山形   | 67p | +19 | 55 | 36 | H○  | A●  |
|    | 水戸   | 67p | +19 | 55 | 36 | H●  | A●  |
| 6  | 徳島   | 67p | +18 | 62 | 44 | A●  | H●  |
| 7  | 甲府   | 65p | +20 | 59 | 39 | A●  |     |
| 8  | 京都   | 65p | +14 | 57 | 43 | H△  | A●  |
| 9  | 岡山   | 65p | +4  | 49 | 45 | H○  | A●  |
| 10 | 新潟   | 58p | +18 | 68 | 50 | H●  | A●  |
| 11 | 金沢   | 57p | +10 | 55 | 45 | H●  | A●  |
| 12 | 長崎   | 56p | -2  | 56 | 58 | H●  | A○  |
| 13 | 東京V  | 52p | -3  | 53 | 56 | H●  |     |
| 14 | 山口   | 47p | -12 | 52 | 64 | A●  | H△  |
| 15 | 琉球   | 46p | -22 | 55 | 77 | H○  | A○  |
| 16 | 千葉   | 43p | -16 | 46 | 62 | A●  | H△  |
| 17 | 愛媛   | 42p | -13 | 45 | 58 | A●  | H○  |
| 18 | 福岡   | 41p | -22 | 37 | 59 | A○  | H●  |
| 19 | 町田   | 40p | -21 | 34 | 55 | H●  | A△  |
| 20 | 鹿児島  | 37p | -32 | 39 | 71 | H△  | A●  |
| 21 | 栃木   | 34p | -22 | 31 | 53 | A△  | H△  |
| 22 | 岐阜   | 30p | -39 | 31 | 70 | --- | --- |

today's guest : **ヴァンフォーレ甲府**

2018 J2 16勝11分15敗 勝ち点59: 9位

| 直近の対決と結果         |                |
|------------------|----------------|
| 2019/04/03       | J2 - 7 節 @中銀スタ |
| <b>甲府 2-0 岐阜</b> |                |

| ここ 3 試合の公式戦の結果 |                               |  |
|----------------|-------------------------------|--|
|                | FC岐阜                          | ヴァンフォーレ甲府                                |
| 2019/11/09     | J2 - 40 節 @デンカS<br>新潟 2-0 岐阜  | 2019/11/10 J2 - 40 節 @中銀スタ<br>甲府 2-0 福岡  |
| 2019/11/02     | J2 - 39 節 @長良川<br>岐阜 0-7 徳島   | 2019/11/04 J2 - 39 節 @たけびし<br>京都 0-1 甲府  |
| 2019/10/30     | J2 - 23 節 @白波スタ<br>鹿児島 1-0 岐阜 | 2019/10/27 J2 - 38 節 @中銀スタ<br>甲府 1-1 鹿児島 |

●11/2 (土) 第 39 節・ホーム徳島戦。鹿児島での痛恨の敗戦から中 2 日という厳しいコンディションで迎えた試合は、序盤は互角に戦っていたものの、ミスから与えたFKで先制点を許してしまうと一気に徳島に傾く。15分間で立て続けに4失点。後半開始直後は岐阜が盛り返すものの、プレーオフ圏内争い中の徳島は休むことなく攻撃を続け、これに耐えられなくなった岐阜は後半も失点を重ね、遂に7失点。そして一矢報いることも出来ないまま、0-7での敗戦。中2日という過酷な状況であったものの、ホームでの屈辱的な大敗に、スタンドからは選手に対する激励と厳しい声が、同時に飛んだ。そして11/9 (土) 第 40 節・アウェイ新潟戦。選手たちは気持ちを入れ替えて臨んだはずだったが、やはり前半 10 分を経ずに失点を許してしまう。その後、惜しいシュートチャンスを作り出すも決めきれず、逆に新潟に追加点を許してしまい、0-2で敗戦という結果に終わった。

これで4試合無得点・3連敗となってしまったFC岐阜。シーズンも残り2試合となった状況の中、勝ち点30で順位は最下位のままだ。20位・鹿児島が勝ち点を37に積み上げたため、岐阜は21位以下が確定。そして、21位・栃木との勝ち点差は4。栃木との得失点差が17もあるため、栃木に勝ち点で並んでも、得失点差を逆転することは非常に困難だと言わざるを得ない。

この状況でFC岐阜がJ2に残留するためには、①J3の藤枝 (現在2位、J2参入資格がない) が2位以上の成績で終わる (= J3降格クラブは1つ)、②栃木が12位・長崎、16位・千葉に1分1敗以下の成績 (= 勝ち点35)、そして③岐阜が7位・甲府、13位・東京Vに2連勝する (= 勝ち点36)、この3条件をすべて達成することが必要で、どれか1条件でも満たさなければ、FC岐阜はJ3に降格する。おそらく厳しくて困難な条件だが、まだ可能性は残されている。諦めたら、そこでシーズンは終了だ。最後の最後まで、選手・スタッフ・サポーターが一丸となって、勝利を目指して全力で戦い抜くしか、このミッションを成功させる方法は残されていない。

さて、今季ホーム最終戦の対戦相手となるのは先述したとおり、ヴァンフォーレ甲府だ。昨季は1年でJ1復帰を目指したが、9位。今季は伊藤彰新監督の元で戦力を大幅に補強し、現在は7位。6位 (= プレーオフ圏内) ・徳島を勝ち点差2で追う位置につけており、今節も絶対に勝利を獲るため、全力で攻撃を仕掛けてくるだろう。甲府との通算対戦成績は、岐阜の1勝5分7敗・11得点22失点。ホーム戦では0勝1分5敗・5得点12失点と非常に相性が悪い。昨季7/15 (日) 第23節には、J2に参入した2008年の開幕戦での初対戦から10年越しで岐阜が初勝利を挙げることができたが、今季4/3 (水) 第7節では0-2で敗れている。強力な上位チームである甲府だが、一方で、直近5試合で鹿児島や栃木に引き分けを許している。岐阜が勝つ可能性だって十分に残されている。

甲府で最も警戒すべき選手には、#9ピーター・ウタカを挙げなくてはならないだろう。16年のJ1得点王で現在18ゴール、J2得点ランキング4位の1トップFWを自由にさせないことが、岐阜の守備陣には求められる。また、直近2戦で3ゴールの“ジョーカー”#17金園英学にも要注意だ。一方、岐阜の勝利のためには、4試合無得点の攻撃陣の奮起が不可欠だ。ここは2回のJ1得点王に輝いた#11前田遼一に、J通算500試合出場のベテランらしいゴールをホーム最終戦で決めて欲しいところだ。また、甲府のボランチ#26佐藤和弘は多治見市出身、かつて岐阜に在籍していた#8新井涼平 (10~11年)、#18佐藤光一 (09~12年) も在籍している。彼らも“凱旋”試合に燃えているだろうが、今節は活躍させるわけにはいかない。長かったはずの2019年J2リーグも、今年もまた、あつという間だったかのようにホーム最終戦を迎える。本当に苦しく厳しいシーズンだったが、J2残留のために、そして何よりホーム最終戦を全員の笑顔で飾るために、今節は絶対に勝利を掴み取らなくてはならない。だから今節も僕らは、最後まで勝利を信じて戦う選手たちの背中を後押しをする、拍手と声援を全力で送り続けよう。そして来季も、このホーム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場に集い、岐阜のために戦う選手たちに拍手と声援を送ろう。(ささたく)

1年間、ご愛読

ありがとうございました。

**大酒場 ホームラン**

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしやいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

**投稿募集 !!**

gidaidohri@gmail.com

## 【第39節】岐阜 0-7 徳島

●サッカーで『たられば』を言ったらキリがない。でも、さすがに少しは言いたくなる(苦笑)。鹿児島戦が延期されなかったら。最後の最後でまさかの敗戦を喫しなかったら。日-水-土の、中2日での3連戦でなかったら。それもこれも含めて『これがサッカーだ』なのだけれど。

アウェイ鹿児島での敗戦後、中2日での上位・徳島戦。木曜朝に帰ってきて1日半、僕だって心身共に疲れを引きずってただだから(苦笑)、選手たちも練習はほぼ疲労回復&コンディション調整に充てただけだったろう。それでも、試合序盤には徳島にボールを支配されつつも、しっかりと守備ブロックを固めつつ、時折チャンスに攻撃を仕掛けていた。けれど、少し前がかりになった時、徳島にDFラインの裏を狙われたボールの処理をミスしてFKを許してしまうと、これを#3 ヨルディ・バイスに決められて1失点。すると、岐阜の選手たちの心が折れたのか、それとも攻撃のバランスが崩れてしまったのか、一気に徳島の“確変タイム”に。15分で4失点、そのうち2失点はPKを採られてのものではあったけれど、為すすべもなく失点していく様は、2015年味スタでの“12分で4失点”の悪夢を思い出させるのに十分でした(溜息)。しかも、まだ前半。後半になると、まずは1点を返そうと攻撃を強める岐阜。けれど、攻撃が繋がらない。2年半、『止まって足元にボールを受けてパスする』ことを練習してるから、フィニッシュ手前の崩しの場面で岐阜の選手たちは動きを止めてしまい、そこを徳島の選手たちに複数で詰められ、ボールを失って守備に回る。それを何度か繰り返していると、やはり岐阜の選手たちがガス欠を起こして動きが鈍ってきてしまう。徳島も、普段の試合なら4得点もすれば気持ちが緩んできそうだけれど、プレーオフが懸かっているから得失点差も考えて、最後まで攻撃の手を緩めない。その後、DFの裏を突かれて再び2失点。最後に元・岐阜、#47 押谷祐樹が“顔見世興行”でロングシュートを決めて、合計7失点。意地で1点でも返してほしかったけれど、それも叶わず。0-7、いわゆる“炭鉱スコア”。たぶん初めての経験じゃないかな？ 広島と湘南には7点、ガンバには8点獲られたことがあるけれど、こちらもゴールは決めてて、得点差は3試合とも6点だったハズ。この残留争い真っ直中な状況で、得失点差でも非常に痛い、屈辱的な敗戦。けれど、あきらめる訳にはいかない。だから僕は、最後まで声援を送り続ける。(ささたく)

●0-5も0-6も何回か見た。1-7は2回見た。2-8も見た。でも、0-7は初めてのハズ。まあ、改めて確かめたりはしなかったけど。この最終盤でこういう結果を突きつけられるのは、やっぱりキツイよね。全力を尽くそうとしたけれど、もろくも崩れ去ってしまった。東京から鹿児島、それぞれが中2日というのは重すぎる足枷だった。

最初の失点は、かなり残念な取られ方だった。でも、それがなかったとしても厳しい流れになっただろう。あとは、北野監督のコメントが示す通りの内容かな？ ただ、徳島の監督のコメントにもあったように、厳しいコンディションの中でもウチの選手は全力を尽くした。たぶん社交辞令はあるにせよ、ボクもそう思う。

いずれにせよ、残留への道のりはかなり険しくなってきた。それでも、行ける限りは現地へ赴き、選手に声を届けたい。新潟でも精一杯声を張り上げてきます。(ぐん、)

●FC岐阜が、持ち得る力の限りまで戦っていたとは残念だけれど思えない。でも、この試合での戦い方が、『この時の』FC岐阜の力の限りだったのだろう、と思う。

日曜に町田で闘い、中2日で水曜夜に鹿児島で戦い、さらに中2日で次の戦い。相手は中5日、磐石の態勢。しかも相手の方が戦闘力で上。戦闘力で上まわる相手には「そこは戦術と腕」で戦わないと勝てないけれど、アウェイ戦から中2日で行なわれる試合でスタメンを1人しか替えられないくらい

の選手層では、準備した戦術を表現することも出来ないだろう。しかも、唯一のスタメン変更で入った選手が7失点のうち3失点の起点になってしまえば、どんな名将でも「もうどうしようもない」としか言えないだろう。そういう状況を総合して、『実力不足』という。文字通りの意味で「いまはこれが精いっぱい」を認識させてくれた試合だった。(吉田鑄造)

## 【第40節】新潟 2-0 岐阜

●う〜ん……。せめて、一点取りたかった。新潟が特別よかったワケでもないように見えたので、なおさらにそう思うのかな？ まあ、川西が決めきれないのならばしょうがないと割り切るしかないのかもしれない。ババケンのもキターッ！ と思っただけけどね。あと、右サイドでバホスがボールをキープした後自らシュートにいった場面。ゴール前に3人ほど走り込んでいたんでクロス入れてほしかった。

ファーにいた透馬なんかどフリーだったけど。思わず、天を仰いでいた透馬が印象に残ってる。それにしても、透馬はキレキレだった。もう少し早く見たかったね。来季はエースになってくれるような気がしてきたよ。あ、向こうのGKに弾かれたシュートは惜しかった。アレはGKの足元を狙った方がよかったような気がする……なんて言ったら、プロに失礼か。ごめんなさい。

それと、やっぱり、ビクトル！ 特別よかったワケじゃないと書いた新潟だけど、この試合も3点は防いでくれたように思う。1点目はともかく、2点目は味方に当たってコースが変わるという事故みたいなシュートだった。この試合で100試合出場だったっけ？ おめでとう、そして、ありがとう！ 勝利で飾れなかったのが残念だ。

さて、泣いても笑っても次節はホーム最終戦。何かが起こせるかもしれないし、何も起こせないかもしれない。でも、やっぱりホーム・長良川では勝って締めくくりたい。いずれにせよ、自分のやることに変わりはない。全力で闘おう！ (ぐん、)

## 【ホーム最終戦恒例】 今季のベストゲーム・ベストゴール・MVPは？

◆ベストゲーム

第12節 ホーム 琉球戦

1点ビハインドの後半、前田、永島と切り札を次々投入。すると前田が相手DFの肩の上から上半身をねじ込むようなヘディングで同点ゴールを決め長良川に火をつけると、仕上げは悠史、左足で逆転ゴールを決めスタジアムを熱狂の渦へいざなってくれた。(cruyff)

第26節 アウェー 長崎戦

ベストゲームはやっぱりこの試合かな？ 試合開始早々に先制されたけど、川西が前半終了間際に同点弾、後半開始直後に逆転弾を決めてくれた試合。押し寄せムードの中のライザのダメ押しゴールは、ボールの流れもシュートの質も素晴らしかった。弾丸遠征の帰り道。真っ暗な車内で希望の光が見えてきた。あの時は確かにそう思ったんだけどね。

ただ、毎年書いているけど、今季のベスト・ゲームは今日であってほしい。そして、来週の今季最終戦はソレを超えることを願っています！ (ぐん、)

第37節 ホーム 愛媛戦

今季は“ベスト”なゲームがあったのかどうか、甚だ疑問ではあるのですが(苦笑)…ホームでの勝利は4試合、やはり、

その中から選びたい。試合運びの力強さから言えば、2/24 (日) 開幕戦・山形戦 (2-0) なのでしょう、あの頃は夢がありました (溜息)。ですが、5か月間ずっと待ち望んだホーム戦での勝利を手にしたという点を優位として、10/20 (日) 第37節・愛媛戦 (2-0) を選びます。しかし、今日の11/16 (土) 第41節・甲府戦での勝利こそがベストゲームだと言いたいです! (ささたく)

今季はこれまででクリーンシートで勝ったのは開幕の山形戦とこの試合だけ。開幕戦は、山形はまだ雪があって戻っても練習が出来ないのである意味「キャンプの延長」として試合に臨んでいたというアドヴァンテージがあった。マトモなクリーンシート勝利はこの試合しかない。(吉田铸造)

#### ◆ベストゴール

##### No.5 川西翔太 21節 (7/6) アウェー福岡戦の1点目

今季も劇的なゴールはあったんだけど、ベストを挙げるならこのゴール。シュート自体もタイミングも完璧。意表を突かれて動けなかったのは相手のGKだけじゃなかった (笑) 川西のポテンシャルの一端が示されたゴール。追加点の前田神のヘッドも、アディショナルタイムの川西の2点目も含め、この試合は素晴らしいゴールの展覧会のようなだった。(ぐん)

##### No.5 川西翔太 30節 (8/31) アウェー琉球戦の2点目

8/31 (土) 第30節・アウェイ琉球戦での#5川西翔太の2点目を選びます。相手DF数名に立ちはだかれても、狙い澄ました股抜きシュートで逆サイドにボールを突き刺した、正にゴラッソ。ゴール後に1点目と同様、9年前の8/28に世界した、桐山周也くんの背番号“13”を指で天に掲げてくれたのも選定の大きな理由です。(ささたく)

##### No.9 山岸祐也 18節 (6/15) アウェー大宮戦

栗飯原の左からのクロス、絶妙のトラップから反転、一瞬にしてニアを射抜いてみせた。あまりの鮮やかさにナックファイブのアウェイゴール裏からは得点が入ったのかどうかかわからず、チームメートのセレブレーションを見てようやく歓声があがった、というのはご愛敬。(cruyff)

##### No.21 前田遼一 21節 (7/6) アウェー福岡戦

前田の持つ高度な「ヘディングの技術」に感動。左からライザがワンタッチで中に入れたクロスに飛び込んで、右側頭部に当てて計ったようにゴール右隅に流し込んだ。まさに千両役者。カネの取れる選手だなあ、と思った。(吉田铸造)

#### ◆MVP

##### No.5 川西翔太

前監督の頭がもう少し柔軟で彼を前半戦からチームに組み込めていたら……。北野体制での4勝はすべて翔太のゴールがからんでのもの。確かなスキルと卓越したイメージネーションで攻撃を組み立て、そしてゴールを陥れる。叶うことなら来季も一緒に戦ってほしい。(cruyff)

この状況で、MVPを選ぶというのは正直キツイ。そんな中で、一人を選ぶとしたら彼しかいない。願わくば、チャンスを供給する川西とゴールを決めてくれる川西。川西がピッチに2人がいてくれたら・・・と思う。彼が開幕から出場できなかったのが返す返すも悔やまれる。でも、コンディションが整わなかったのならしかたがない。残念だ。(ぐん)

今季の開幕前、チームの面々を見た時に、僕は『今年の岐阜は川西翔太のチームになる』と、よく大分が貸してくれたな

と思いました。残念ながら大木監督のサッカーには馴染めなかったのか(?), 全く出番がなかったけれど、北野監督になってからは縦横無尽の奮戦ぶり。20試合出場でチーム得点王の7ゴール。従いまして、僕は#5川西翔太を選びます。(ささたく)

#### ギッフィー

この状況では選手から選ぶのは無理なのでマスコットから。再びデル・ピエロ氏を長良川に呼んだり、リバプールのオーバメヤンと写真に収まったり (ぬいぐるみみだけど) と、相変わらずの大活躍。長良川のダンスでも口ひげをつけて「ギフレディ・マーキュリー」になったり、結構やりたい放題だったけど「だけど私は許されちゃう、それは私がかわいいから」と、ピチカート・ファイブ『私のすべて』の歌詞を引用したくなってしまった。

もし岐阜がJ3に降格したら、向こうには岩手『キツール』(その造形は一見の価値あり)、八戸『ヴァン太』(J唯一の「酔っ払い」マスコット)、鳥取『ガイナマン』とJ2以上に個性的なマスコットが待ち構えているぞ。がんばれギッフィー! (吉田铸造)

## 【編集人から一言】 J3はこういうところです

●前節の結果を受け、FC岐阜はこの甲府戦で栃木との勝ち点を縮められないとJ2最下位が確定し、J3に降格します(2ページ後ろの「J3順位表」を参照してください)。

もちろん、FC岐阜にJ2残留の可能性がまだある以上、諦めずに戦ってほしいですし、ぼくも応援します。しかし、だからといって「J3というリーグを知らなくてもいい」というわけではない、と考えます。ぼくは、岐阜サポの中では比較的J3を覗いている方だと思うので、ここで「J3とはこういうところ」というのを、ザックリですが紹介します。

#### ① そもそもライセンスのベースが違う

J1とJ2はアジアサッカー連盟(AFC)基準の国際ライセンスで、J3はJリーグだけで決められる国内ライセンス。J2とJ3でスタジアム基準が大きく異なるのは、そのためです。わかりやすい例では、J3ライセンスではホームスタジアムに照明の設置が義務づけられていません。夏場のアウェー戦が厳しい環境の日中に行われる可能性を意味します。また、FC岐阜自身もコストカットのためにデーゲームを増やす可能性があります。※長良川競技場の夜間照明(全灯)は4時間使用で約10万円です(実際は現在も施設利用料関係は減免されているかもしれません)。

#### ② 試合数が減る

来季はJ3にFC今治が参戦します。東京武蔵野は断念しましたので、J3のチーム数は19に。ホームゲームが3試合減ります。ホームゲームを開催して赤字にはならないので、純粋に収入減になります。

#### ③ Jリーグからの均等配分金が減る

2018年の例ですが、J2チームが受け取る配分金は1億5千万円で、J3チームは3千万円。ただし、J2からJ3に降格したチームは、降格1年目だけは1億2千万円になります。来季も同じだと仮定すると、FC岐阜が受け取る配分金は3千万円の減。ただし、1年でJ2に戻れないと、さらにそこから9千万円が削られます。著しい収入減です。

#### ④ アウェーのサポーターが来なくなる

これは定量的なデータではないですが、知人の富山サポの話では「圧倒的にアウェーのサポが減る」とのこと。J3には集客力のあるクラブが多くないので、そうなるのかもしれませんが。アウェー・サポの購入するチケットにはシーズンパスのような割引はされないの、これも純粋に収入減になります。

## ⑤ 天皇杯の問題

Ｊ３チームは天皇杯全国大会にシードされず、県予選からの戦いになります。決勝から登場の「スーパーシード」的扱いなる場合が多いですが、４年前の富山県ではＪ３富山が北信越リーグの富山新庄クラブに敗れて出場を逃しています。また、神奈川県のように大学チームが強いところは、Ｊ３チームが予選で消えるなんてザラです。記憶に新しいところでは今年の静岡県はＪＦＬのホンダＦＣがＪ３の藤枝や沼津を破って県代表になり、Ｊ１札幌→Ｊ２徳島→Ｊ１浦和と立て続けに破って８強にまでなりました。

もし、ＦＣ岐阜が県決勝で勝って天皇杯出場を決めたとしても、それは「岐阜県代表」であり、岐阜県他チームの天皇杯出場機会を奪っているのは事実です。ＦＣ岐阜がＪ２にいれば、他のチームが岐阜県代表で天皇杯に出られたからです。

●以上、ＦＣ岐阜のオフィシャルＭＤＰが書くわけがない、Ｊ３について簡単に書いてみました。この記述が無駄になることを祈ります。(編集人：吉田鑄造)

## 今季の、そして 来季のＦＣ岐阜へ。

●さて、まずはいつもの如く、今季のＦＣ岐阜をデータで振り返ってみます。過去５年間の勝率は、

|       |      |           |       |          |
|-------|------|-----------|-------|----------|
| 2015年 | 42試合 | 12勝7分23敗  | ・勝点43 | (勝率0.29) |
| 2016年 | 42試合 | 12勝7分23敗  | ・勝点43 | (勝率0.29) |
| 2017年 | 42試合 | 11勝13分18敗 | ・勝点46 | (勝率0.28) |
| 2018年 | 42試合 | 11勝9分22敗  | ・勝点42 | (勝率0.27) |
| 2019年 | 40試合 | 7勝6分24敗   | ・勝点30 | (勝率0.18) |

(2019年は第40節現在)

同じく過去５年間の、１試合あたりの得点および失点は、

|       |        |        |          |
|-------|--------|--------|----------|
| 2015年 | 0.88得点 | 1.63失点 | 19 / 22位 |
| 2016年 | 1.12得点 | 1.70失点 | 20 / 22位 |
| 2017年 | 1.35得点 | 1.58失点 | 18 / 22位 |
| 2018年 | 1.07得点 | 1.51失点 | 20 / 22位 |
| 2019年 | 0.78得点 | 1.78失点 | 22 / 22位 |

(2019年は第40節現在)

勝ち点30でＪ２最下位が確定していないというのは、近年希にみる低レベル(例年ですと勝ち点42前後がＪ２残留ライン)なのですが(苦笑)、そのおかげで何とか、首の皮一枚つなげてホーム最終戦を迎えることができています。それを、後で振り返った時には笑って話せるようにしたいものです。今季は大木監督体制３年目でスタートしましたが、その段階で危険信号が灯っていたようにも思います。開幕戦では勝利したものの、徐々に勝てなくなり、6連敗して大木監督が退任。北野監督になってからも戦績は好転せず(とは言っても、1試合あたりの勝ち点は北野監督の方が僅かに上回っています)、敗戦を重ねています。特徴的なのは、試合の終盤(アディショナルタイム)に失点して引き分けあるいは敗戦、という試合が多かったことではないでしょうか。もちろん、サッカーとはそういうスポーツなので、終盤にドラマが待っているのは当然なのですが、ウチが取りこぼした勝ち点の何と多かったことか…。そして、今季も怪我人が続出して戦力が不足しました。やはり、これらはクラブの練習環境、特にフィジカルの強化不足が要因だと思わざるを得ません。例えばパスサッカーを標榜しようとも、いや、標榜すれば尚のこと、選手のフィジカル強化が必要だと僕は思います。90分間全員が走り続け、ボールを動かし、パスを受ける際にも当たり負けしない(そして怪我しにくい)身体づくりが重要なのは、現在4位・水戸の躍進を見ても分かりますし、あるいはラグビーW杯・日

本代表の活躍でも明らかになったことでしょう。そして僕は、たとえ岐阜の猛暑の中でも、上手くはないかもしれないけれど90分間ひたむきに走り続け、最後には相手選手を運動量で圧倒する、岐阜の選手たちの活躍を応援したいのです。かつてそれは『長良川劇場』と呼ばれ、実在しました。もちろん、現在はＪ２のレベルそのものが大きく向上しているので、当時とは比べものにならないのですが……。練習場などの設備の充実も急務ですが、これには時間がかかります。それ以上に、フィジカルコーチを招へいして、フィジカルトレーニングを充実させることや、食事環境の充実(あるいは、選手にスポーツ栄養学を学ばせること)で、まずは90分間しっかりと戦えるチーム作りを再構築するよう、僕は切に希望します。来季どちらのステージで戦うかは今も不明ですが、今季の現時点でのスタメンの半分近くが期限付き移籍である以上、大幅な戦力の入れ替えは絶対に避けられず、チーム作りは一からに限りなく近くなるでしょう。ならば、まずはフィジカル強化を土台にしても良いと思うのです。

また、来季からはＪ２及びＪ３でも『ホームグロウン制度』が本格化します。2022シーズンには、21歳以下で3シーズン登録していた選手を1名以上、トップで登録しなくてはなりません。そのためのユースの環境整備(または高卒選手の獲得)も重要になってきますが、こちらもトップに負けず劣らず貧弱な練習環境ですので、今度どうなっていくのか、注視したいと思っています。

経営の方は、フロント・スタッフの努力が素晴らしいと思っています。ホームスタジアムの“地域のお祭り”感がさらに増しているのは、ちょっとイベント詰め込みすぎの傾向もありますが、僕は大好きです(笑)。藤澤さんのおかげで累積赤字が解消され、宮田社長の手腕で単年度収支も黒字基調で、かつての『もし降格したら、収支が悪化してクラブそのものが無くなってしまいかも』という恐怖と向き合わなくて済むのは、本当にありがたいことです。ただし、もしもＪ３に降格した場合、1年目は降格救済で1.2億(Ｊ２分配金の80%)が分配されるけれど、2年目以降はＪ３本来の分配金3000万になってしまう(注:分配金の額は2018年のもの)。この差はデカ過ぎるので、Ｊ３に落ちたとしても1年で復帰を…とは言っても、Ｊ２と同様、Ｊ３もＪ２経験クラブが半数近くを占める現在、それも困難な道程でしょう。来季のＦＣ岐阜は、奇跡のＪ２残留を果たすも再び残留争いをするのか。それともＪ３でＪ２昇格を目指すのか…個人的には『昇格』という、サポーターにとっては最高に幸せな瞬間を、2007年のＪ昇格を経験していない皆さんに体験していただきたいと思ったりするのですが、昇格できる確約もないので……(苦笑)。どちらにせよ、チームの強化方針と同様に、クラブの経営手腕もさらに求められることになるでしょう。僕らサポーターも、クラブに気持ちよく財布の紐を緩めてお金を払えるように手を変え品を変え(笑)、今後も企画・提案をして欲しいものです。

……等々と、色々来季への課題や苦言(?)を僕個人の思いでつらつらと挙げてみました。まあ、Ｊ２・Ｊ３どちらのステージに立つとしても、僕はなんだかんだと文句を言っても「このクラブとチームとＪリーグを楽しむ」ってことに関しては、来季も変わらないんでしょう(苦笑)。サッカーが地域にある日常、スポーツで生活が豊かになる社会、いわゆる『Ｊリーグ百年構想』を、僕は来年も一生懸命に謳歌したいと思います。ちなみに、おかげさまで今号で『岐大通』は2007年の発刊から通算249号を数えます。次回・2020シーズン開幕戦号は通算250号!みんな投稿してね!っていうか手伝ってくれる方も大募集!(そろそろ切実)(ささたく)

●どうも来季は戦う舞台が変わりそうである状況だが、不思議と心は落ち着いている。だって数年前と違い、今はクラブの存続そのものに関する心配が必要なさそうだから。戦うステージがどこであれ愛するクラブがあるかぎり、こちらはただひたすらサポートするだけ。そんな単純なことを改

めて確認させてくれたのが今シーズンの収穫、かな？（苦笑）未知のアウェイの地へのアクセス方法やら観光資源やらをググることにワクワク感を感じているのは内緒（笑）。(cruyff) ●今季もフロントはイベントやコラボなどを通して集客面で本当に頑張ったと思います。その前向きさ加減は某飲料メーカーの創業者の名言「やってみなはれ」が示すチャレンジ精神を彷彿とさせる物だと最近気がつきました。来季もこの道を突き進んで行って欲しいです。

一方のチームの今季の成績面は……。来季のFC岐阜がどのリーグで戦えるかは（少なくとも今日の試合前には）まだ決まっています。J2に残れば当然メッチャ嬉しいですし、J3に落ちたとしてもそれは受け入れます。自分はそう思っています。まあ100年続くFC岐阜の歴史の中ではそんな事もあるでしょう。ただ、ただ、チーム編成に関してロマンに走るのだけは当分止めにして下さい。（ヤックル）

●この状況は開幕する前から兆しがあったのかもしれない。大木さんの奥様に関する事はボクなどが知る由もなかったけれど、クラブとしては把握していたはず。そういう状況で指揮を任せることの是非。それから、川西が出場しなかった理由。コンディションが整わなかったというなら、それは環境が整わなかった、環境を整えられなかったことへの反省と向上が必要だろう。逆に、大木さんのお眼鏡にかなわなかったからというのが理由なら、編成の見直しをしなければならぬだろう。監督が使わない選手を獲得することはマイナスでしかない。それから、山岸の完全移籍はともかく、宏矢のレンタルも釈然としません。

試合に関する事以外のイベントについては最大限の敬意と感謝を表したいし、FC岐阜ならでは……というモノを打ち出せたと思う。あとは、メインをどうするか。もちろん、環境の面でもまだまだ足りないものはある。ただ、これだけのスポンサー様が支援してくださって、これだけの選手がいて、観客、サポーターが参入当初からは信じられないくらいに増えているにも関わらず、成績が変わらないのはなぜなんだろう。クラブ関係者のみならず、「FC岐阜が好きだ」と思う人がみんな考えなきゃいけないのかもね。（ぐん、）

●ある日の学校帰りにいきなり異世界に召喚されるライトノベルのように「突然、J3降格圏に放り込まれた」わけではない。1年間、リーグ戦を戦ってきた結果がこれだ。

現時点で、FC岐阜の残留／降格はまだ決まっていないけれど、「今季の岐阜はなぜこうなってしまったのか」はしっかり考える必要がある。もし来季のステージがJ3になったとして、これを考えておかないとJ3の1年目を無為に過ごすことになりかねない。降格1年目を無為に過ごすことがどれだけ恐ろしいかは、2ページ前の拙稿『J3ガイド』をご参照ください。

今季の低迷の理由は、ただ一言「弱かったから」。競馬界の有名な言説「強い馬が勝つんじゃない、勝った馬が強いんだ」は、今季の岐阜には当てはまらない。「弱いチームが負けるんじゃない、負けたチームが弱いんだ」ではない。「弱いチームが負けた」のだ。優勝劣敗の原則はキチンと機能している。

昨年夏の古橋の移籍のように、シーズン途中にとんでもない戦力の喪失があったわけではない。多くのサッカー・メディアやサッカー・ライターさんから「完成したら面白くなる」と言われた（くどいけど、この件はぼくは根に持つよ）大木サッカーの3年目は、1年目のような庄司の球出しやシシーニョの惚れ惚れするサイドチェンジもなく、2年目のような古橋の翡翠（カワセミ）ゴールハンティングもなく、その完成には一向に近づかない……というより、逆に遠くなっているようにさえ見えた。

そして、夏の監督交代。GWには『社長のお言葉』（残留争い慣れているFC岐阜だが、実は残留に向けて『社長のお言葉』が出されたのは初めてのはず）も出て、それには「大木監督のもと……」と明記されていたのに、2ヶ月後の監督交代。さて、この決断は正しかったのか。

交代自体は、ぼくは正しかったと思う。でも、やっぱり解せないのが交代のタイミング。FC岐阜にとって『残留』を第一優先にするなら、交代は今シーズン前というか昨シーズン終了後すぐにだったと思うし、『残留』を第一優先にしないのなら、第一優先でないのだから、J3に降格しそうになっても、そしてJ3に降格しても大木監督で行くべきだった……と、大木監督退任を受けての『岐大通』でも同じことを書いてたな。よしよし、鑄造はブレてない（苦笑）。

後任の北野監督になって補強した攻撃陣、馬場とバホスが鮮やかな不発だったのは誤算だっただろう。宮本の故障で有効なパスを出せる選手が川西だけになってしまって、前線の攻撃力が落ちてしまったのも誤算だろう。ただ、ぼくら観戦族が「ここが勝負どころ」と感じたところで北野監督が打つ手が有効でなく、それで失った勝ち点は3や4では済まないだろう。監督から「なんも知らんくせに！」と怒られるかもしれないが、結果が出ていないのだから仕方がない。プロサッカーなんて間違いなく結果がすべての『勝負の世界』なのだし、普通の会社の営業職だって、結果で勝負しているのだ。

来季。もしJ2で迎えるのなら、最初から、開幕戦から、必死になって「残留を目指して」ほしい。「昇格を狙う」「1桁順位を」なんてチープな人工甘味料のような夢は、もういらぬ。もしJ3で迎えるのなら……現時点では「J3に慣れるな！」とだけ。「んなわけねえだろ、1年で戻るに決まっている」と、思うでしょ？でも、慣らされてしまうのだ。容易に。「牙を抜かれる」んじゃないで「牙が退化してしまう」。そういうチームを（具体名は挙げませんが）いくつも観てきた。それはそれは恐ろしい世界。「J3に慣れない」は「J3で闘う」よりむずかしいミッションだとぼくは思う。

そして、来季がJ2であろうとJ3であろうと、『強化部』の体制は見直してほしい。J2に上がったからの最高成績が2年目（10年前！）の「下から7番目」というのは、さすがに「強化が機能している」とは言えないだろう。ぼくがとて影響を受けた本『詭弁論理学』にあった記述だけど、「逆境の中にも楽しみがあるから」といって『逆境が楽しい』というわけではない」のだ。（編集人：吉田鑄造）

## 11/10 時点の J3 順位表。

|       |       |     |     |    |    |      |            |
|-------|-------|-----|-----|----|----|------|------------|
| 1     | 北九州   | 59p | +20 | 45 | 25 | 残り 4 | ★ J2 ライセンス |
| 2     | 藤枝    | 57p | +13 | 30 | 27 | 残り 4 |            |
| ----- |       |     |     |    |    |      |            |
| 3     | 群馬    | 54p | +23 | 55 | 32 | 残り 4 | ★ J2 ライセンス |
| 4     | 熊本    | 51p | +5  | 41 | 36 | 残り 4 | ★ J2 ライセンス |
| 5     | 富山    | 49p | +18 | 47 | 29 | 残り 4 | ★ J2 ライセンス |
| 6     | 鳥取    | 49p | -4  | 46 | 50 | 残り 4 | ★ J2 ライセンス |
| 7     | C 阪 U | 43p | -9  | 42 | 51 | 残り 4 |            |

今季の藤枝の最終順位が2位以内の場合、J2のJ3降格枠が1になります。7位のC大阪U-23が残り全勝しても北九州を上回れないので、J2のJ3降格枠が0になることはありません。J2最下位のJ3降格は確定しています。（編集人：吉田鑄造）

